



平成 26 年 2 月 20 日

「 所 信 表 明 」

本日は第 66 回通常総会へご出席いただき有難う御座います。
2 月に入り、記録的な大雪が降り、倶楽部運営等にご苦労されていることと存じます。

平成 26 年度の「所信表明」に入ります前に、平成 25 年度の事業につきまして、簡単に要点をご報告させていただきます。

「TEAM KGA ジュニア」につきましては、初めて認定選手の選抜を行い、積極的な活動を開始致しました。各都県におきまして、徐々にでは御座いますが、成果が上がってまいりました。

JGA が推し進めます JGA/USGA ハンディキャップシステムにつきましては、2014 年度から実施されます事から、数回の説明会を開催し、ご理解をいただくように努力を続けてまいりました。

主催競技関係につきましては、男子の倶楽部対抗が新たにブロック大会を導入して実施致しました。平成 25 年度は 393 倶楽部が参加され、参加倶楽部数が増え続けております。また、4 年目となりました、女子の倶楽部対抗には 196 倶楽部が参加され、すっかり安定してまいりました。

個人競技に目を向けますと、男女ともシニアクラスの競技への参加者が増えております。

以上、主だった点を申し上げましたが、各課題とも順調に推移してまいりました。これも、ひとえに加盟倶楽部の皆様のご支援、ご協力のお陰と感謝致しております。

それでは、平成 26 年度の「所信表明」に入らせていただきます。

事業計画と致しましては、平成 26 年度も引き続き「魅力ある KGA」を基本に据えまして、日本のゴルフ界に貢献できますように活動してまいりたいと存じます。

2020 年度にオリンピックが東京で開催される事が決まり、ゴルフも注目されるようになります。そして、メダル獲得が国民の期待する事かと存じますので、当連盟と致しましても、世界トップレベルのプレーヤーに伍して戦える選手を育成・強化をする事が、大きな目標となります。



本年度は次の5つの課題を重点目標と致します。

1. KGA 規約、規約内細則を抜本的に見直し、組織革新・強化を図る課題
2. 競技参加選手が納得できる主催競技の管理・運営と、競技委員の能力の資質向上を図る課題
3. 「TEAM KGA ジュニア」の指導体制の充実と、ジュニア育成活動の各都県への展開の徹底・充実を図る課題
4. 2014年度より導入される、JGA ハンディキャップ (USGA ハンディキャップシステム準拠) の各都県での説明会等による加盟倶楽部への普及を図る課題
5. 「R&A 入門ルールスクール (レベル1)」を展開し、加盟倶楽部のゴルフ規則の資質向上と倶楽部競技の振興を図る課題

この中で、第1項「KGA 規約見直し」の課題につきましては、JGAの公益財団法人への移行に伴い、当連盟も実態に沿った、適切な対応が求められるようになるかと存じます。

当連盟は、昭和10年3月18日にわずか8倶楽部が集まり、以来、その意思である「加盟倶楽部の会員間の社交、親睦を図る事」の目的を受け継いで任意団体として歩んでまいりました。しかし、現在は加盟倶楽部が500倶楽部、主催競技が118試合という大きな組織になってまいりました。当連盟を、今後も発展させる為には、現在の体制の見直しが必要ではないかと考えまして、検討を始める事と致します。

第3項の「TEAM KGA ジュニア」の活動は、益々充実したプログラムとして大きな成果を出す年にしたいと思っております。

第5項「R&A 入門ルールスクール」は、JGAが準備致しました、「R&A入門スクール (レベル1)」を、JGAの指導の下で競技委員会規則部会が各加盟倶楽部に展開し、倶楽部で開催されている倶楽部競技の振興に繋げて、成果を出す年としたいと存じます。

その他、第4項「JGA ハンディキャップ」は、本年度より開始されておりますJGA/USGAハンディキャップシステムの普及活動を支援してまいります。

また、第2項の「主催競技の管理・運営の向上」に関しましては本年度も継続して活動してまいりたいと存じます。

本年度も皆様のご協力の下、関東ゴルフ連盟が基本として進めております、「魅力あるKGA」の実現を、確実に展開し成果を上げてまいりたいと存じます。

ありがとうございました。

以上